

朝食が終わり、畑仕事に出掛けようと思
ったら電話が鳴った。受話器を取ると、相
手は「おはようございます。〇〇です。お
久しぶりですね。私たち一家はコロナウイ
ルスを避けて、街中から山間部に居を移し
ました」と言った。声の主は、なんとアメ
リカ東部に住む旧知の友人だった。多少不
便でも子供たちの命の安全を考えて決断し
たそうだ。「仕事
はどうするの」と
聞くと「大丈夫、
テレワークやオン
ラインでやれるから。今かけている電話も
パソコンから」と言っていた。

数日後、再び電話がかかってきた。引つ
越して荷物を整理していたら、数年前にも
買った梅酒の瓶が出てきたという。「見た
ら茶色になってきているけれど、ドリンクO
K?」と聞くので「OKだよ、年代物にな
ってきたから以前よりおいしくなっている

と思うよ」などと、英語と日本語を交えて
懐かしい声と会話ができた。
彼が住むアメリカは新型コロナウイルス
の感染者と死者が世界中で最も多い。その
アメリカで経済活動を本格的に再開する動
きが活発化している。日本も徐々に規制が
緩和されだしたが、第2波、第3波
が気になる。

今までとは違う生活

そんな中
で私たちは
今までは
違う生活様
式が求められている。例えば、時間
をかけて一堂に集まる会議などは、
スマートフォンやパソコンなど文明
の利器を活用して、オンラインで済
ませることもできるだろう。私もそ
の取り扱いに熟知し、使えるように
する必要があると思えてきた。

(安曇野市穂高、荻原義重、76歳)

点差

こうさてん